

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0781
施設名	鹿骨おひさま保育園
施設所在地	東京都江戸川区鹿骨2-23-1
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ> 【4歳児きりん組】

木

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自然豊かな環境にある登園は日々、散歩や戸外遊びで自然に触れている為「木」はとても身近な存在。その木に興味を深め木で出来ている物・玩具に発展していく中で、子ども達が主体的に遊びを進めていけると考えた。木について興味を深め、遊びを発展させたい。

2. 活動スケジュール

- 4月 戸外で自然に触れ「木」に関心を持つ。木で出来ている身近な物や玩具に気付く。
- 10月 木の実・落ち葉・木登り等木に触れる。カプラ導入・熟年者交流会で体験する。
- 12月 子ども達へヒントや共有する楽しさを伝えられる様、カプラ園内研修を実施する。
木製玩具の導入/手触り・音・硬さ・色等の違いに気付く。
カプラと組み合わせてイメージを広げる。(積木・人形・動物・カタカタ等)
- 1月 戸外活動で改めて「木」を身近に感じ、気付きを大切にする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・散歩では自然に興味を持ち、木の実や葉を持ち帰れるよう入れ物を用意。
- ・手触り、香り、音等楽しめるよう各部屋にカプラを配置(増量)。
- ・カプラを広げるスペースの確保(FS/ホール)。完成見本写真を用意。
- ・保護者周知の為プロジェクト、スクリーンを準備。HPやお知らせで周知。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園庭に生えている木や、周辺の公園や広場にある木に触れる際、意識できるような声掛けをしていくと、子ども達が、大きさや違いに気が付き発見を楽しんでいた。保育室に木で出来ている物がある事を伝え、カプラを常備した。木製で出来ている為一つひとつのカプラに違いがある事にも気が付き、より木への興味が湧いているように感じた。カプラでは、熟年者交流で大人と一緒に作成したり、職員の研修で作成した町を見た事で、より一層創造性を膨らませるようになり、ビルやタワーから始まり、その周りに町が出来ていったり、電車や車に見立てて遊んだり、遊びがとても展開していった。またカプラに加えジェル積み木等他の玩具も取り入れた事で、組み合わせて作成する事も楽しんでいた。また、ホールの広い場所でいつもよりも多い3000ピースのカプラで大々的な町やタワーを作って遊ぶ姿も機会も作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

散歩では木登りできる木があるのでそこに上り、木の頑丈さや木登りの面白さを感じていた。いろいろな大きさや形の木がある事に気が付き、保育士と発見を楽しんでいた。カプラでは一つひとつに木目の違いがある事に気が付き、「なんでちがうの?」と訪ねていたので、年輪の話や木の木目の話をする事で、よりカプラに対する興味関心が湧いていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近にある木に改めて着目することで、子ども達と発見を共有することができ、子ども達の興味関心の幅を広げる事が出来たことが良かったと感じる。今回カプラでも遊ぶことができ、子ども達の想像力が日々成長していった様子を見る事が出来た。積み上げることから始まり、次第に形が複雑になっていくと、ジェル積み木も入れ込みタワーに様々な色を入れる事を楽しんだり、積み木を車や人に見立ててごっこ遊びを楽しみむ姿が沢山見る事ができ、非常に有意義な取り組みだった。保護者会では子ども達がカプラを楽しんでいる様子を動画に納め、スクリーンに上映して日々の楽しんでいる様子を伝えていった。